

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和3年度
福島県意見交換会(第3回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2022年2月24日

● 目次

1. 実践の場の概要
2. 実践の場「読む会」の開催結果
 - (1) 副代表・復興庁からのアドバイス
 - (2) あすびと参加者の感想
3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ
4. 意見交換 1
 - (論点1) 年間の取組内容・実践の場に対する良かった点・改善点
5. 次年度の協議会・意見交換会について
6. 意見交換 2
 - (論点2) よりインパクトある取組するために工夫するポイント
 - (論点3) 次年度テーマ

● 1. 実践の場の概要

これまでの意見交換会の内容を踏まえて、下記の内容で実践の場を開催しました。

開催日時	2022年1月29日（土）13:00～15:00	開催場所	オンライン開催（@Zoom）
タイトル	「大学生発・福島キャリア新発見」創刊記事を「読む会」		
企画目的	<p>学生の書いた取材記事に関して、大人目線、読者目線でのレビュー、アドバイスを実施し、今後の記事作成に向けた学びとしていただく 半谷代表から、「大学生発・福島キャリア新発見」創刊にあたっての思い、および次年度以降の活動方針について発表いただく</p>		
実施内容	<p>13:00～ 開会挨拶・趣旨説明 13:10～ 半谷代表より 「大学生発・福島キャリア新発見」創刊にあたって」 13:20～ 対話会<ul style="list-style-type: none">● 大野農園株式会社● 株式会社ふたば14:40～ 國分事務局長より 当日の学びと次号への思い 14:45～ 半谷代表よりまとめと次年度に向けた方針発表 14:55～ 閉会挨拶（福島大学・山口さん）</p>		
規模	【参加者】20人 (学生：3名、あすびと福島：2名、副代表・オブザーバー：6名、復興庁・復興局：6名、PwC：3名)		

● (ご参考) 当日の様子



大学生発 福島キャリア新発見① 大野農園
株式会社 塚原健太さん

記事：中里直也（福島県立医科大学1年）
取材日：2021年12月10日

『ひとつひとつの仕事に、目の前のひとりひとりに、誠実に向き合う』



講習にあたって

自分たちの、経験をもとに、社会問題の解決方法、社会・生活について議論するための企画である。そして何よりも重要なのは参加者一人ひとりが興味を持ち、自分たちが持つ知識を、他の人に教えることである。そのため、自分たちが持つ知識を、他の人に教えることで自分自身が成長する機会である。自分たちが持つ知識を、他の人に教えることで自分自身が成長する機会である。

● 2. 実践の場の開催結果 (1) 副代表・復興庁からのアドバイス

学生ならではの視点や表現に対する好評価が多くありました。一方、さらなる改善に向けては、企業や仕事の内容が具体的に伝わることの重要性に関する意見が複数ありました。

	大野農園	ふたば
感想	<ul style="list-style-type: none">キャリアがある程度決まっているが、<u>取材を通して視野が広がった</u>というのはうれしいこと自身の体験で、就職先の<u>最後の決め手となつたのは「人」</u>。この取組が広まるとよい	<ul style="list-style-type: none">企業の方も相手が<u>学生だからこそ話してくれる事</u>があったと思う。こうした取組を継続してほしい取材内容の検討、取材や記事の作成を通して、<u>学生の皆さんのが成長</u>されていると感じた
良かった点	<ul style="list-style-type: none">単なる取材ではなく、<u>ディスカッションを通して記事構成を考えられた</u>のは良い点「人が都市部に流れ込むのは自然なこと」という記載が印象的。<u>地域に住む学生の視点</u>が出ていた読み手への最初のインパクトが重要であり、<u>問い合わせで始まる記事構成</u>は非常に良かった自身の視点で企業や社員のもつ魅力を伝えられており良かった	<ul style="list-style-type: none">会社の取組だけではなく、<u>新入社員の成長</u>を記事化したのは良かった。学生が読み手であり、<u>年代の近い方の声</u>を届けるのは意味がある取材時以外の写真を扱えたのは非常に良かった<u>「ふくしま」の仮名表記</u>が目を引いた。さらに<u>自身の思い</u>が反映されていることがわかりよかったです地元の企業の素晴らしいさを伝える上で、地元住民と対話するなど、<u>地元ならではの業務内容</u>を発信出来たのは良かった
さらなる改善に向けて	<ul style="list-style-type: none">商品開発には3部門あり、それぞれの部門の苦労などが取材できるとなおよよいコロナ化により地方の魅力も見直されており、取材の中で<u>地方で働くことのメリット</u>についても盛り込んでいただけるとなお良い可能であれば<u>企業から写真の提供</u>を受けて、実際に農業に従事している姿なども紹介できると良い	<ul style="list-style-type: none">学生時代の<u>専攻や専門性で活かせていること</u>など、より具体的に記載できるとなおよくなるご本人の<u>思いの背景の具体化</u>ができるとよい<u>SDGsへの取組</u>もキーワードの一つとできるとよい<u>事業内容の抽象度が高い</u>ので、今後の記事作成ではより<u>具体的に記載</u>できると良いご本人の貢献により<u>業績</u>がどう伸びたか、<u>上司の方の声</u>も可能であれば聞けたら良いと思う<u>地域としてのブランド</u>を取り戻そうとしている企業についても取り上げることができると良い

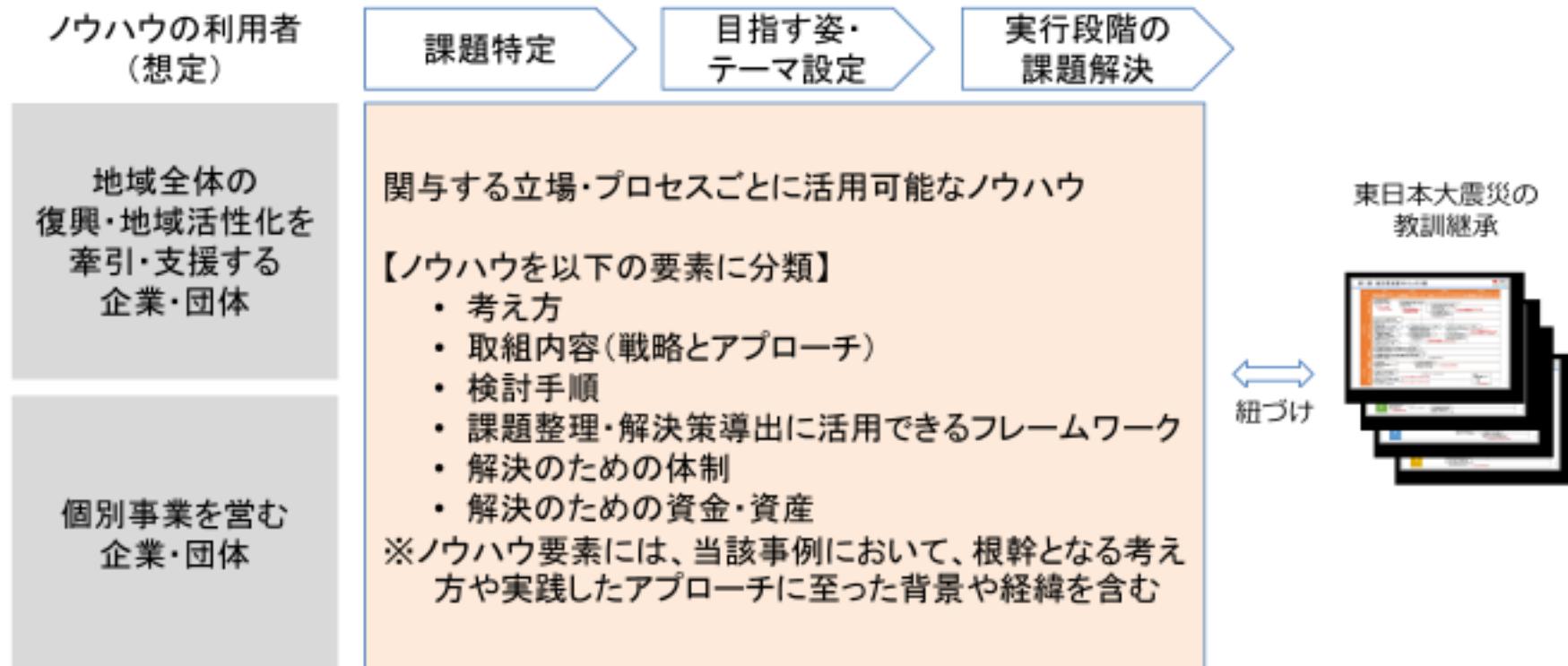
● 2. 実践の場の開催結果 (2) あすびと福島メンバーおよび学生の感想

学生にとって、この取材・記事作成という体験による学びは大きく、今後に向けての意欲的発言をいただきました。あすびと福島としても、本取組のユニークさを維持しつつ、継続していくという思いを発表いただきました。

	学生	あすびと福島（半谷さん・國分さん）
振り返り	<ul style="list-style-type: none">記事作成では、企業・人の魅力を伝える構成考え方、<u>サブタイトル</u>も興味を持っていただけた工夫し、<u>大学生ならではの観点や感想</u>を入れた取材を通して<u>福島での就職に拘っていく気持ち</u>になることが出来た<u>中通り出身の方の震災の捉え方</u>や働き方に対する考え方を聞くことが出来て、<u>新たな発見</u>があった	<ul style="list-style-type: none">取材先として「株式会社ふたば」「大野農園株式会社」へ初めての取組であるにもかかわらず快く引き受けて頂き、また関係各の方のご尽力があり創刊することができた。改めて感謝したい
当日の学び	<ul style="list-style-type: none">持つていなかった視点を頂いたので参考になった<u>仮名表記にこめた思い</u>が何であったかを改めて認識できた大学で学んでいる<u>SDGs</u>なども盛り込めたらよかったですと感じた	<ul style="list-style-type: none"><u>写真をより多く盛り込む</u>ことにつき、編集部として意識することは大切と感じた学生目線とは何かを考えるに、<u>本日学生各自が感じたことこそが学生目線</u>である学生の感じられたことを記事に継続的に盛り込みながら、掲載する写真や、<u>企業の事業内容について</u>てもより分かりやすいよう採り入れていきたい
今後に向けた 思い	<ul style="list-style-type: none">構成や学生としての視点に良いコメントも頂けたので継続したい<u>事業者のWebサイト等では知ることのできない若手の方の声を取材できた</u>のは良かった。今後は会社の<u>事業内容について</u>より踏み込んだ取材を行っていきたい	<ul style="list-style-type: none"><u>「学生の視点」こそが学生の求めている情報</u>であると思うので、次の記事へつなげていく本取組は「<u>人の魅力を通じた企業の魅力発信</u>」にユニークさがあり、そこは今後も担保したいあすびと福島の<u>若手（学生・スタッフ）の主体性を尊重</u>しながら、目的をぶらさずに、記事内容・取材内容について検討していく<u>年間12件</u>くらいのペースで掲載を続けたい

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

本年度の取組では、地域全体の復興・地域活性化を牽引・支援する立場の企業・団体と個別事業を営む企業・団体とで活用可能なノウハウが抽出できると考えています。また、これらのノウハウは課題解決のプロセスにおける課題設定、目指す姿・取組テーマの設定、実行段階で発生する課題の解決に区分して整理でき、教訓継承のノウハウの詳細版として紐づけて整理できるものと考えています。



● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

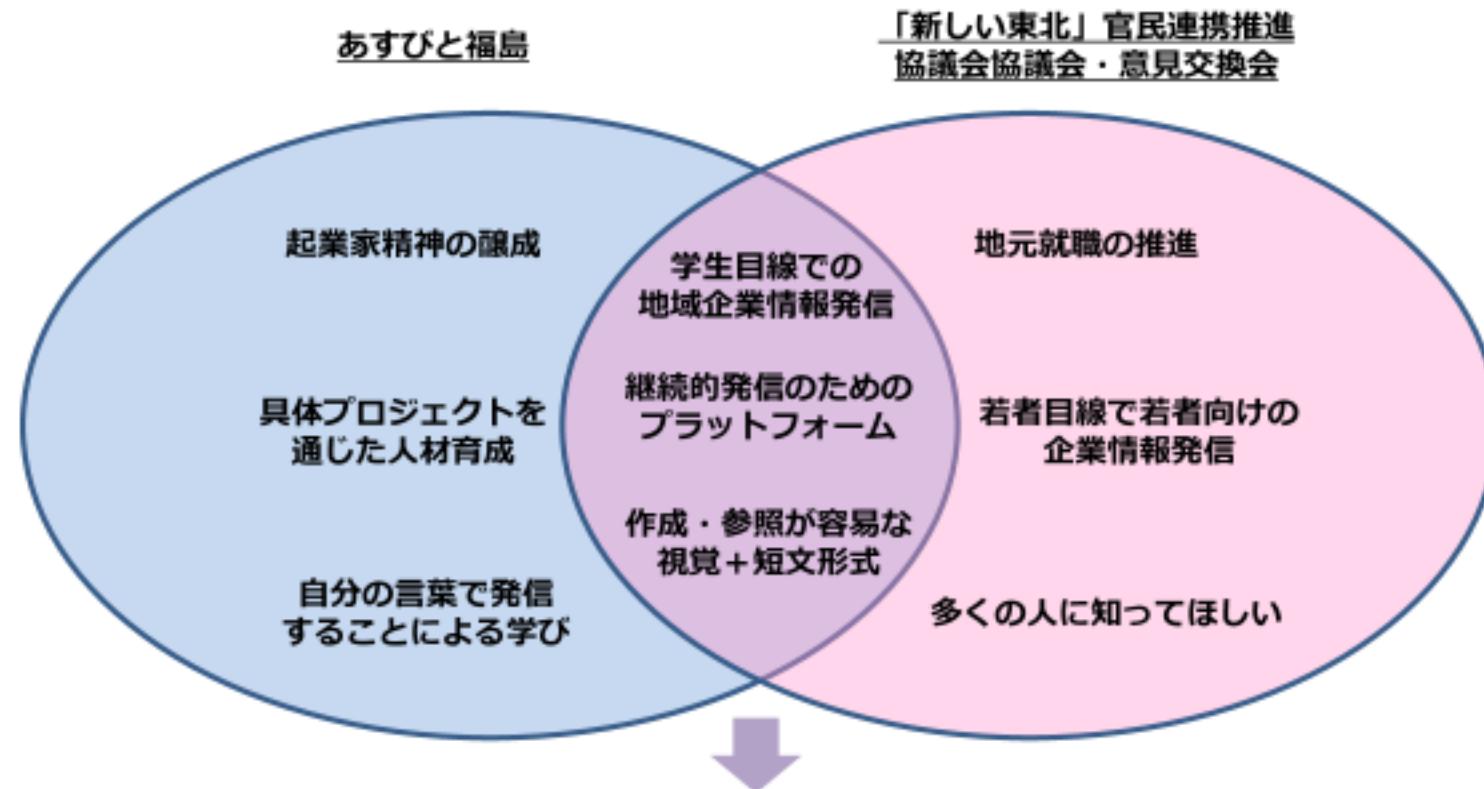
目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

分類	課題設定
考え方	<p>次世代育成</p> <ul style="list-style-type: none">あすびと福島では、「原子力災害の被災地である福島の復興には非常に時間がかかる」という問題意識があった。課題解決のために自ら考え行動する若者が次々と出てくる未来を目指し、従来から次世代育成を団体のミッションとして取り組んでいる <p>地元就職の促進</p> <ul style="list-style-type: none">協議会では、過年度の意見交換会の活動を通じ、地元就職の促進のための活動を実施した経緯あり。学生が地元就職の選択肢を認識し、興味を持つためには、大人目線ではなく「学生による地元企業情報の発信が必要」であるという課題意識を持ち、類似の取組実績を有するあすびと福島に働きかけ
取組内容(戦略 とアプローチ)	<p>協議会との協業</p> <ul style="list-style-type: none">あすびと福島でも協議会同様に地元就職が進まないことに対する課題意識があり、課題意識の共有から協業がスタートした協議会としての「地元就職の促進」という目的に対し、あすびと福島の「次世代育成」の目的が重なるように、活動の方向性を双方で協議(※別紙で説明)
検討手順	-
活用できるフ レームワーク	-
解決のための 体制	-
解決のための 資金・資産	-

● 【参考】あすびと福島との連携の方向性

人材育成に力点を置くあすびと福島の地域企業取材活動と、地元就職促進を目指す当協議会・意見交換会の活動、両者の重なりうる部分において新たな要素を入れられるのではないかと考えます。



学生目線での地元企業取材をして学生間で広く相互発信ができる枠組みを組成。取材による学びと隠れた地元魅力の発見・共有を促し、地元就職の増加につなげていく

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

分類	目指す姿・テーマ設定
考え方	<p>学生目線での地元企業取材・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の就職のための情報媒体は多数存在するが、多くは企業目線での情報があふれており、アピールの強い首都圏企業に学生の目が向きがちであるという問題意識があった 一般に存在している就職情報媒体とは一線を画し、一般には知られていない地元の中堅・中小企業の良さを伝えることに価値があると考え、地元だからこそできる、学生による地元企業取材と学生自身の視点での記事作成、学生向けの情報発信が有効という考えを持った
取組内容(戦略とアプローチ)	<p>大学生のプロジェクトベースラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> あすびと福島では、従来より高校生のプロジェクトベースラーニングを盛んに行っており、大学生のプロジェクトベースラーニングの導入を検討していた あすびと福島において、今回の企画を大学生の成長機会として活用することを本格検討し、「大学生発福島キャリア新発見」として実施するに至った <p>福島に向き合うことを重視</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元就職の促進という目的を学生に負わせるのではなく、学生にとっての学びが提供できるかを第一に考え、学びの一環として学生が地元企業に触れることを通じ、結果として福島に向き合うこととなり、自身が福島で働くことの意義や価値を伝える役割を自然と果す形を目指した
検討手順	-
活用できるフレームワーク	-
解決のための体制	<p>協議会との協業</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画検討段階で協議会とあすびと福島での協議を重ねることで両者の認識ギャップを調整 <p>大学生あすびと会</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校時代からの接点がある大学生のグループがあり、今回の企画を持ちかけた 企画の立上げ段階において、まったく接点の無い学生にこの企画を説明して理解してもらうことには無理がある
解決のための資金・資産	-

● 3. 年間の取組を通じて導出したノウハウ

課題設定

目指す姿・
テーマ設定

実行段階の
課題解決

分類	実行段階の課題解決
考え方	<p>人の魅力による企業の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生に比較的年齢の近い社員を取材対象として出していただくことを依頼した。学生にとって自分に近い存在の魅力的な先輩社員がどのように仕事と向き合っているかを知ることで、間接的に企業の魅力を伝えることを意図した 学生ならではの視点を重視し、その点において他の媒体との違い、ユニークさを担保する
取組内容(戦略とアプローチ)	<p>学生の関心獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> 内発的な関心を「待つ」ことが極めて重要。「やらなくてはならない」=mustではなく、「自らやりたいと思う」=willが重要であり、自ら関心を持つ学生の意思を尊重した 学生の震災時年齢によって福島への向き合い方を変えていく。震災当時幼かった世代には、原体験としての震災の記憶は薄い。震災復興という文脈ではなく、まずは今の福島・福島で働く人のリアルな状況を知ることにより、自分事として福島に関わる気持ちを高めていく
検討手順	<p>企業選定</p> <ul style="list-style-type: none"> 取材先企業の選定にあたって、協議会副代表団体の意見を集約し、「あまり学生には知られていないが魅力的な企業」のリストアップを行い、同時になぜ魅力的と考えるか、その要素を抽出 抽出した要素を抽象化し、本取組における企業選定基準として言語化した
活用できるフレームワーク	取材先候補企業リスト(※具体的な企業名でなく、項目の参考として)
解決のための体制	<p>支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の活動を支える組織として、継続的な基盤となる大人が運営する組織(=あすびと福島)が必要 学生との活動を進めるには長期的な信頼関係、親戚づきあいのような関係性が必須 <p>継続に向けた勧誘</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の信頼関係のない勧誘やネット上の関係構築には限界がある。部活動のように、一緒に活動している先輩が後輩に声掛けすることが最も有効。それが自然と継続につながる
解決のための資金・資産	<p>事業ポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> あすびと福島では、企業研修によって収入を確保することで事業目的である次世代育成を無償で実施

● 4. 意見交換 1

本年度の取組を踏まえ、次年度以降へ活かすべき内容、改善点について、ご意見を伺います。

論点 1

次年度に向け、年間の取組内容・実践の場
に対する良かった点・改善点

● 4. 次年度の協議会・意見交換会について

次年度は、これまでに蓄積したノウハウを被災地内外に普及展開をさらに効果的に実現するため、課題設定や推進方法、発信方法などの観点で発展させた取組とする考えです。

次年度の事業概要（『令和4年度予算概算決定概要』（令和3年12月 復興庁）から引用）

■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて 優良事例の表彰やワークショップ等を通じて 被災地内外に普及展開するとともに、移住促進や交流・関係 人口の拡大、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携、専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

次年度の協議会の方向性

- ・ 「新しい東北」官民連携推進協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する
→普及展開を目指したインパクトある取組とするため、課題設定や推進方法、発信方法について議論し、工夫する

<議論・工夫のポイントイメージ>

課題設定： 地域ならではの課題 × 日本全体の課題・未来の課題 × 地域の魅力による解決の可能性で選定

推進方法： 核となる団体に加え、関連する企業・団体を大きく巻き込み推進

発信方法： 実践の場を軸にしつつ、検討プロセスを含めた発信による興味喚起

● (参考) 今年度のテーマ設定と参画いただく関与者

第1回意見交換会資料

今年度テーマは「学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う」と設定し、あすびと福島さんを起点にコアメンバーとなる学生の参画を進め、活動基盤の組成、取材・発信用の記事の作成、学生間での発信の実現を目指します。

テーマ	<p>＜複数年で取り組むテーマ＞ 学生の地元就職が進む枠組み作り ＜今年度＞ 学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う</p>
取組に関する 主な意見 (第0.5回意見交換 会)	<ul style="list-style-type: none">・高すぎない目標設定で、ものづくりや技術体験などを出口に設定・取組の効果を計測できる指標（中長期で地元就職率、短期でSNS閲覧数等）の設定とモニタリング・インターン等の既存取組での不足に着目した目標設定・県内外の学生や企業側のニーズの目線での情報収集・発信
取組に参画いただく コアメンバーおよび 関与者	<ul style="list-style-type: none">・関与者：一般社団法人 あすびと福島 半谷栄寿さん (コアメンバーとなる学生は今後声掛け予定)
今年度末の 到達目標	<ul style="list-style-type: none">・活動基盤の組成、取材・発信用の記事の作成、学生間での発信の実現

● 今年度のテーマ設定と次年度に向けて

今年度テーマ目指した目標は一定の達成を見た。一方で、ノウハウの適用範囲は限定的であり、次年度に向けては、重視するポイントは維持しつつ一定の軌道修正の必要性を議論したい。

令和3年度

そもそも
問題意識・
ねらい

- ✓ 単発のイベントで終わらず、地域課題解決の取組を定着化させたい
- ✓ 活動の支援を通じてノウハウを抽出し、他地域にも展開したい
- ✓ 福島の産業振興に向けた担い手確保

令和4年度

- ✓ 重視するポイントは大きく変えない
- ✓ 「担い手確保」を軸にテーマ設定を広めに見直すか

テーマ

＜複数年で取り組むテーマ＞
学生の地元就職が進む枠組み作り
＜単年度＞
学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う

今年度末の
到達目標

- 活動基盤の組成、取材・発信用の記事の作成、学生間での発信の実現

今年度の
取組結果

- あすびと福島にて「大学生発福島キャラ新発見」の取組がスタート
- 次年度以降の活動継続が確定
- 一定のノウハウを抽出できた。ただし、適用範囲は限定的



＜複数年で取り組むテーマ＞（案）
産業振興に向けた継続的な担い手確保
＜単年度＞（案）

- a. 首都圏学生の誘引
- b. 福島への移住・定住の促進
- c. ベンチャー、研究フィールドとしての福島進出促進

エリア

福島・浜通り

テクノロジー

ロボット
ドローン
脱炭素(再エネ・水素)
スマート農業
…



● 議論・工夫のポイントイメージ

課題設定

他地域でも活用可能なノウハウとするために、複数の観点を加味した課題を設定

地域ならではの課題

日本全体の課題・
未来の課題

地域の魅力による
解決の可能性

人口減少
(担い手不足)

人口減少

産業DX・スマート農業

産業振興・農漁業再生

テクノロジーの進歩

社会起業家誘致

風評対策・廃炉推進

気候変動と資源不足

地域脱炭素の取組

イノベーション

都市化の進行

ホープツーリズム

帰還から移住・定住へ

ヘルスケア

Well-Beingへのデータ活用

推進方法

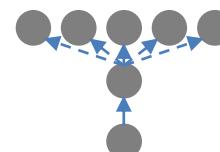
巻き込む企業・団体の数や取組の検討・実行体制を検討

過年度

次年度

核となる団体との検討

挑戦する企業・団体



協議会・事務局

グループへの働きかけや協議会側の活動者増加

発信方法

対外的な発信の回数や方法を変更

過年度

検討・準備

実践の場での発信

次年度

SNS
計画の発信

SNS
活動の発信

イベント
実践の場での発信

SNS
活動の発信

● 5. 意見交換 2

次年度の意見交換会・実践の場を通じた取組の方向性検討にあたり、工夫すべきポイント、次年度の取組テーマについてご意見を伺います。

論点 2

よりインパクトある取組とするために工夫するポイント
(課題設定、推進方法、発信方法などの観点とその内容のアイデア)

論点 3

次年度の取組テーマや対象とする地域

令和3年度 第0.5回資料（抜粋）

● 1. 今年度の協議会の方向性

復興庁関連事業と連動し、過年度からの事例の発掘・共有を継続実施しつつ、今年度は被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する方向性です。

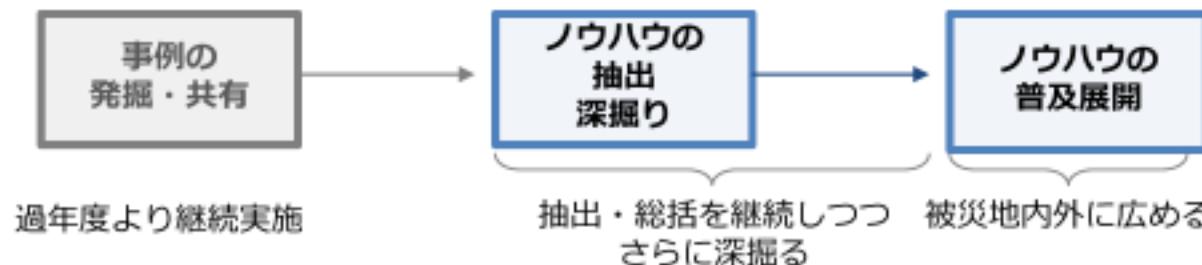
関連する復興庁の本年度事業概要（『令和3年度予算概算決定概要』（令和2年12月 復興庁）から引用）

■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて 優良事例の表彰やワークショップ等を通じて被災地内外に普及展開するとともに、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携や専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

本年度の協議会の方向性

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する
(今年度はノウハウの総括に取り組んだため、この内容をさらに深掘り、広く発信していきたい)



● 3. 過年度までの振り返り

過年度までの意見交換会・実践の場を通じ、課題に対する解決策導出や情報発信の成果を創出。ただし、その後の実現や取組の継続には至っていなかったことから、本年度の意見交換会・実践の場では、復興・地域活性化に向けた実行・継続の仕組みを意識した議論・取組とすることを検討します。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	年度ごとの成果	課題
テーマ	人材×日本酒（日本酒を核にしたネットワークづくりの検討）	食・観光・伝統工芸など、地場産業の担い手確保	福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）	東日本大震災から10年目にあたって	年度ごとに被災地の状況を踏まえた課題設定と解決に向けた議論・取組でアイデア導出・情報発信	復興・地域活性化に向け創出したアイデアの実現や取組の継続のための仕組みづくり
実践の場	「福島県product・伝統工芸品のPR（福島市）（福島県観光物産館）」「アイデアソンの開催」（東京都千代田区） 福島：日本酒と酒器の組み合わせ商品の展示・販売 東京：Made in Fukushima商品をつくることのアイデアソン	「ふくしまキャリア探求ゼミ～ふくしま新しい働き方・チャレンジの仕方にについて知ろう～」（福島市） 福島県にU/Iターんをして新たな生活・仕事のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、理解を深めてもらうためのワークショップ	「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」（福島市） 福島県内在住の高校生・大学生に対し、県内には魅力的な仕事・働き方が多くあることを知ってもらうために、県内で活躍しているゲストと対話し、学生自身が将来を考えるワークショップ	「ふくしまプラクティス2020 — 実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦 —」（双葉郡楢葉町） 挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的としたイベント		

● 4. 過年度までの検討経緯及び課題を踏まえた今年度のテーマ設定案

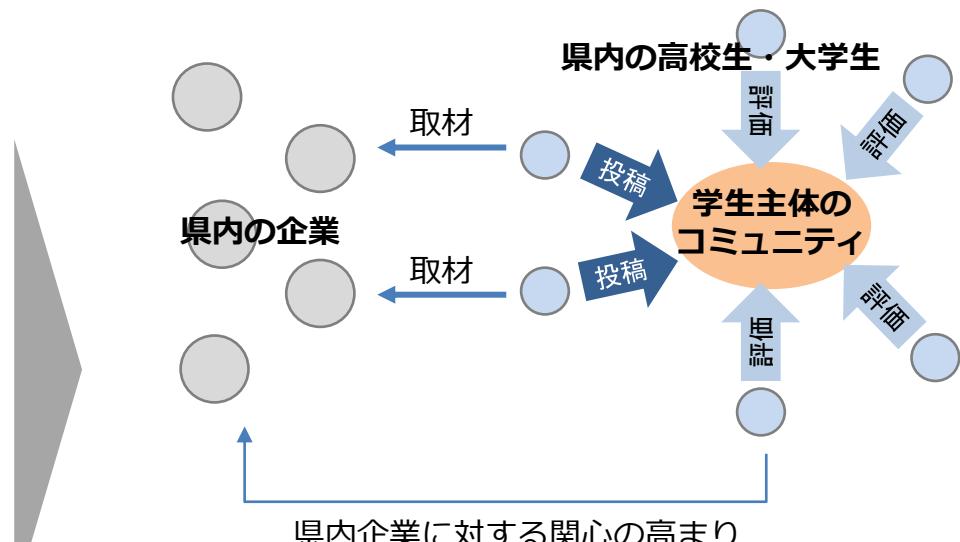
過年度において、若者の地域への関与に向けた取組において、地元就職のために県内で働く方に関する情報発信の活動を実施しました。しかしながら、「大人目線」での取組であり、学生主体の活動として定着することはありませんでした。今年度は、学生による学生のための取組として、県内企業を紹介する試みを検討しています。

過年度意見交換会で議論された要素（抜粋）

就学・就職のタイミングで地元を離れてしまう	<ul style="list-style-type: none">地域活性化における若者の関心を高めることの重要性が度々議論になった地元就職の選択肢が認識されずに、就学・就職時に地元を離れる高校生・大学生が多い
若者が地元企業を知る機会がない	<ul style="list-style-type: none">地域で活動している魅力的なプレイヤーは多数存在するが、若者の視野には入りにくい就職先としての大手企業くらいしか知る機会がないのが現状
「大人臭」のするイベントには若者が集まらない	<ul style="list-style-type: none">就職説明会など、イベントは多数あるが、いずれも大人目線で、直接的な就業を目的としたものが中心若者が自分たちのために企画する活動でないと継続性が出ない

2019年に実施した「キャリア探求ゼミ」では、若者に地域で活躍する社会人を知つてもらう機会が作れましたが、大人主導であり単発で終わってしまった

取組実現のイメージ



- コアになる学生を中心にコミュニティを組成
- 県内で活動する企業や起業家を学生が取材
- 学生目線で企業の紹介記事を作成し、コミュニティに投稿
- コミュニティに参加する学生が投稿記事をコンテスト形式で評価
- 学生が学生向けに企業を紹介しあうことにより、県内企業に対する注目度が向上
- コミュニティによる活動が自発的に継続される

● 5. 初回ご挨拶における各団体からのご意見

普及・展開を見越して、取組と協議会の目的の整合性の意識、福島大学をはじめとする各大学との活動と連携したテーマ設定の検討、牽引役が学生となった場合の学業に支障が出ないようケアが必要という意見をいただきました。

分類	意見（敬称略）
テーマ	<ol style="list-style-type: none">協議会・意見交換会の設置目的を踏まえ、取組と目的との整合を意識する必要がある。単に学生の就職支援とならないようにする必要があると考える。意見交換会のテーマ案は福島大学FUREの活動内容とは異なる印象である。福島大学にはFUREの他にも「ACF（アカデミア・コンソーシアム・ふくしま）の活動」「COC+事業」があるが、「COC+事業」の方が、意見交換会のテーマ案に近い印象であり、連携出来ないかと考えた。ただし、実現可能性は未知数である。
実践の場 (内容)	<ol style="list-style-type: none">実践の場で活動報告等あると思うが、その際に就職する生徒が多い高校にアプローチすると、学生により県内企業に関心を持ってもらえる場が広がるのではないか。
牽引役	<ol style="list-style-type: none">学生が興味のある分野に携わる魅力ある企業を県内でも発信していくことは重要であると考えている。会津にはレクサスのエンジンのパーツを作っている30人規模の企業もある。あすびと福島の取組は先進的であり連携は良いと考える。実際に成果を上げている企業の方との接点を持てるかがポイントになると考える。牽引役をあすびと福島の学生とする場合、大学1年生が最も適していると考えており、次に高校1年生が適していると考える。
進め方	<ol style="list-style-type: none">関わる学生には趣旨等をしっかりと理解してもらうと共に、学業に支障が出ないようケアが必要となる。